

1. 針刺し事故防止

1. 針の取り扱いの原則

- 1) 針を持って歩かない。
- 2) 針を人に向けない、手渡ししない。
- 3) 針をリキャップしない。
(どうしてもリキャップが求められるときは、片手によるリキャップ法を用いる)
- 4) 使用済みの針はその場で責任をもって使用者自身の手で感染性廃棄物容器に直ちに廃棄する。または携帯用の針廃棄容器に廃棄するか現場に容器を持参し、直ちに廃棄する。
- 5) 針を取り扱う場合は、できるだけ手袋を使用する。
- 6) 注射の準備、施行、片づけをしている最中の人にはできるだけ声をかけない
- 7) 「鋭利な物を取り扱っている」という意識を持つ

2. 針刺し事故の多発する行為について

- 1) 点滴使用後の針(翼状針など)を点滴ボトルのゴム部に刺してはいけない。
- 2) 点滴使用後の針(翼状針を含む)を点滴ボトルやスタンドにテープで貼り付けてはいけない。
- 3) 翼状針は最後まで針を収納したことを確認してから感染性廃棄容器に廃棄する
- 4) 針廃棄専用容器に手を入れてはいけない。
- 5) 針を素手で取り扱わない。
- 6) 廃棄する時は、容器の中にしっかり廃棄できていることを確認する
(中途半端な廃棄をしない)

3. 針廃棄専用容器の管理

- 1) 使用中倒れないように管理する。
- 2) 80%程度まで入ったら、蓋をしっかりと閉めて交換する。
- 3) 針廃棄専用容器の中身を他の容器に移し替えてはいけない。

4. 針刺し防止のポイント

採血、静脈ライン確保など、針を使用する際は以下について注意する。

1) 準備

- ①サンダルではなく、靴をはく。
- ②必要物品を不足なくそろえ、処置しやすい位置に準備する。
 - ・手袋は自分の手のサイズにあったものにする。
 - ・できる限り安全器材を使用する。



- ・針捨てボックスは利き手側の安定した位置に配置する。
- ③処置しやすい、位置・姿勢をとる。
- ④処置のための時間を十分に確保する。
- ⑤患者に説明し、協力を得る。
 - ・処置が終わるまでは動かないように説明する。
 - ・必要時、二人以上で処置を行う。
 - ・処置中に痛みがあった場合は動かさず言葉で伝えるように説明する。

2) 実施

- ①処置に集中し、落ち着いて行う。
 - ・周囲の人も集中できるように気を配る。
- ②処置手順を省略せずに常に基本に忠実に行う。
 - ・処置に熟達し、安全な手技を身につける。
- ③注射器は持ち替えない。
- ④リキャップせず、使用后直ちに廃棄する。
 - ・針を持って移動しない、人に手渡さない、ポケットに入れない、ことを守る。